

いま知っておきたい 「みらいのお金」の話

松田 学 著

単行本：348 ページ

出版：アスコム

価格：1500 円（税抜）

はじめに

2017 年に「億り人」という言葉と共に世間を賑わせた仮想通貨。価格の落ち着いた現在でも、その利用価値や発展の可能性に注目が集められています。しかし、これまで仮想通貨に深く関わったことのない人は「実在しない貨幣」という程度の認識に落ち着いているのかもしれませんが。今回はそんな仮想通貨、未来のお金のリテラシーについてご紹介します。

仮想通貨と電子マネーの違い

そもそも現金以外の支払いにはどんな方法があるでしょうか。仮想通貨と電子マネーの大きな違いは「自由なお金かどうか」というところにあります。仮想通貨には公的機関によって定められた単位などはなく、それぞれ個人で発行することさえ可能なのです。

もちろん知名度も信用もない一個人が新しい仮想通貨を発行したところで、実用的な価値が生まれることはないでしょう。しかし、もしもファンが世界中にいるような有名人が自身の仮想通貨を発行したとしたら、ネームバリューも手伝って大きな価値を持つことが予想されます。YouTuber というビジネスが急成長したことと同様に、今後の発展が大きく期待されています。円やドルなどの法定通貨とは異なる価値を持つ、まさに未来のお金なのです。

ブロックチェーンとは

仮想通貨と同じタイミングでよく耳にするようになったブロックチェーン。これはいったい何を表す言葉なのでしょう。ブロックチェーンとは「仮想通貨を実現するための技術」と筆者は述べています。改ざんが不可能な電子データベースをブロックチェーンと呼びます。日本語では「分散型台帳技術」と言い、データ改ざんができない他にも、紛失したり、盗まれたりしない信頼性の高い管理データベースです。

ブロックチェーンはデータベースをコピーして複数の場所で管理することにより、全体的な正確性を高めることに成功しました。もしも 1 つの台帳に不正があったとしても、残りの 99 の台帳の記録が合致していれば、どちらが正しいかは一目瞭然です。IT 技術の進歩により、膨大な情報量を複製し正確に記録・保存することが実現しました。これがブロックチェーン技術です。

実際の運用について

これまで仮想通貨に触れたことのない方は、思い切って購入してみることも、理解を進める一つの方法です。本書内では初めて仮想通貨を使うための手順についても説明しています。

ブームにおいて、特に有名になったのがビットコインです。BTC という表記で示され、現在、1BTC は 40 万円ほどです。ですが、実際に購入する際は 1BTC 未満の単位でも問題ありません。0.001BTC という買い方もできるのです。この柔軟性がそれが仮想通貨が評価される一因でもあります。

しかし、実際はまだセキュリティー面が脆弱であるという問題点もあります。PC でもスマートフォンでも、インターネット上で取引・保管をする実体のない通貨であるため、銀行などの金融機関に比べてサイバー攻撃に弱いのです。0.001BTC 程度の金額であればハッキングの手間に見合わないため、攻撃を受けることはないだろうと筆者は述べていますが、既存通貨に比肩する存在になれないのはこの辺りが原因になっています。

今後、セキュリティー技術の向上と共に更に普及が加速すると予想されています。これからの時代に欠かせない存在になりえる仮想通貨について学べる、おすすめの一冊です。